大阪インターナショナルチャーチ アリステア・マッケンナ師 2019/12/29

ヘブル人への手紙13章1-9節

「信仰の実」

13:1 兄弟愛をいつも持っていなさい。

 13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。

 13:3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやり、また、自分も肉体を持っているのですから、苦しめられている人々を思いやりなさい。

 13:4 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行う者とをさばかれるからです。

 13:5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

 13:6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましょう。」

 13:7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。

 13:8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

 13:9 さまざまの異なった教えによって迷わされてはなりません。食物によってではなく、恵みによって心を強めるのは良いことです。食物に気を取られた者は益を得ませんでした。

**はじめに**

ヘブル人への手紙は、新しい契約を大切にするようにユダヤ人信徒たちを励ますために書かれました。神は、御子イエス・キリストをとおしてユダヤ人のために新しい契約を結ばれました。

この書の著者は、イエス・キリストが私たちの罪の完全ないけにえとしてたった一度ささげられたと語ります。

古い契約では、人類の罪のために動物のいけにえを繰り返しささげる必要がありました。

新しい契約では、人類の罪の贖いを提供するために神の備えられた方法がイエス・キリストでした。

この新しい契約における神の恵みとあわれみをなかなか受け入れられないユダヤ人信徒たちがいたようです。

古い契約のもとでは、神の御目にかなうために従い行わなければならないことがたくさんあったからです。

まず、十戒に従うことです。

それに、ユダヤの食物に関する律法を始め、モーセ五書に記されたすべての律法がありました。

十戒だけでも、すべてに従える人はいません。

十戒は、人がどれだけ努力しても、きよさに関する神の基準に達することはできないことを人類に示すものでした。

一方、新しい契約はこれとは異なります。

新しい契約は、信仰をもって信じることです。御子イエス・キリストの犠牲をとおして、神がなしてくださったことを信じる信仰です。

純粋な動機で信仰によって信じるなら、イエス・キリストはご自身の聖霊を人々の心に送ってくださり、聖霊がその人の心に宿ります。それは、努力でできなかったきよい生活を送れるように助けるためです。（ヨハネ14：25-31）

新しい契約ははるかによい契約でしたが、祭司やいけにえの制度と宗教としてのユダヤ教の必要性はなくなりました。

一方、ユダヤの祭りや選民に対する神の約束はなくなりません。

新しい契約は、預言者をとおして神があらかじめ約束しておられたよりよい契約なのです。

エレミヤ書31：31-37

31:31 見よ。その日が来る。──【主】の御告げ──その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。

 31:32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。──【主】の御告げ──

 31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。──【主】の御告げ──わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

 31:34 そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。──【主】の御告げ──わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

 31:35 【主】はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の【主】。

 31:36 「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、──【主】の御告げ──イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で一つの民をなすことはできない。」

 31:37 【主】はこう仰せられる。「もし、上の天が測られ、下の地の基が探り出されるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行ったすべての事のために退けよう。──【主】の御告げ──

この個所は、「置換神学」と呼ばれる教えを支持するクリスチャンにとっては、その考えの誤りを示してくれる個所です。

「置換神学」が何か知らない人もいるでしょう。神が旧約時代にご自身の選びの民に約束された事柄を置き換えようとする世界的なクリスチャンの動きです。

「置換神学」の教えは次のようなものです。

神の約束の対象はアブラハムとその子孫、つまりユダヤ民族でしたが、教会に取って代わられたというものです。教会とは、世界中の新生したクリスチャンのことです。つまり、神はイスラエルの地にもイスラエル民族にももはや目的を持っておられないというわけです。

先ほどのエレミヤ書のみことばを読むだけでも、この教えが正しくないことがわかると私は思います。

けれども、多くのクリスチャンはそうは考えないようです。

1月19日から、私はOICでの最後のシリーズ説教を始めます。これは、教会とイスラエルに関する真実について皆さんに知っていただくためのものです。

私はこのシリーズ説教をするよう神に示されました。それは、これまでOICでこのことについて皆さんとしっかり学んだことがなかった内容ですし、イエスの再臨に近づくにつれ、これが欠かせない学びだからです。

新年を迎えるにあたり、神が私たち一人一人に備えてくださる新しい恵みの契約を忘れないようにしましょう。

私たちが神に仕えるのは、イエスをとおして神が私たちに注いでくださった神の恵みに感謝しているからです。

新しい契約は、規則の遵守ではなく、絆です。

ヘブルの最終章で、著者は読者に信仰の実がどのように現れるかを教えています。

人間の常識的には、実がなるのは木が健康だからです。

りんごでもマンゴーでも、実がほとんどならない、またはまったく実がならない、というのは木に何らかの問題があるからです。

健康な木は努力せずとも実を結びます。

とは言え、木を健康に保つためには、良い土、日光、雨などに加え、剪定や世話をする人も必要です。

クリスチャンの人生にも同じことが言えます。

良い土は、私たちの心を象徴します。

私たちの心が神の前に正しくなければ、実を結ぶことはできません。

聖霊の実が私たちの人生に働いていれば、2020年には神が私たちに望まれる結果が生み出されるでしょう。

聖霊が心に宿っていなければ、御霊の実を結ぶことはできません。

良いことをいろいろできるかもしれませんが、それは聖霊の実ではないのです。

聖霊なしにできることはたくさんあります。

クリスチャンだと言いながら聖霊が心に宿っていない人には、神が望まれるかたちでクリスチャン人生を歩むことはできません。

クリスチャンとしての実を結ぶには、神の聖霊によって新しく生まれる必要があります。

今日のメッセージの内容ではありませんが、ガラテヤ5：22-23には、聖霊の実が記されています。

**ガラテヤ5：22-23**

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

 5:23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

2020年へと踏み出す今、皆さんにお尋ねします。

神の助けを得て、あなたはどんな聖霊の実を育てる必要がありますか。

ヘブルの著者は、今日の個所で少なくとも9つの事柄を指摘しています。それらは、神の聖霊に助けていただいて、私たちが新年に取り組むべき内容です。

1. **兄弟姉妹として互いに愛し合うことを続ける。（1節）**

**コリント第一13：4-7**

13:4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

 13:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、

 13:6 不正を喜ばずに真理を喜びます。

 13:7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。

神の聖なる愛は、人間同士の愛情とは異なります。

人間同士の愛情は、罪の性質に汚されています。また、自然を超越した能力を必要としません。

悪いことをしなさそうな、どこから見ても素敵な人を愛するのは簡単です。

けれども、意地悪ばかりしてくる人を愛するのは人情的にむずかしいでしょう。不可能にも思えます。

けれども、神の聖霊の助けをいただけば、自然を超越したかたちで、そういう人のことも愛せます。

神は、愛する者を懲らしめられるとみことばで語っておられます。

ですから、意地悪な人や態度の悪い人を私たちが愛し続けたとしても、神がその人を懲らしめられるかもしれません。それは、神の聖霊によって悔い改めに導かれ、変えられるためです。

神の愛で愛するには、聖霊による超自然的な能力が必要です。ですから、人間同士の愛情とは違うのです。

2020年、私たち全員の課題は、人情ではなく、神の聖霊の力によって互いに愛し合うことです。

自然を超越する愛を示した最大の模範はイエス・キリストです。

ローマ5：6-11

5:6 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。

 5:7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。

 5:8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

 5:9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

 5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。

 5:11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。

1. **おもてなしを実践する。（2節）**

この手紙が記された時代、旅の途上にあるクリスチャンをもてなすことは不可欠でした。

今の時代のようなホテルはありません。

民泊やビジネスホテルもありません。

宿泊施設は、「宿屋」と呼ばれるものだけでした。

当時の「宿屋」には、ろばや馬のための家畜小屋と宿泊する部屋がありました。しかし、宿泊客はあまりよくない人たちで、「宿屋」自体もきれいではありませんでした。

現代では旅先にきれいで安全なホテルがありますが、宿泊料金を支払える人ばかりではありません。

とくに、伝道や巡回説教のために旅をしているクリスチャンはそうです。

聖書を教える説教者をもてなすのは大きな祝福となり得ます。

**一例：**

ある巡回説教者をもてなした一人の女性に本当にあった話です。

この女性は既婚者で裕福だったので、神のしもべにごちそうをする余裕がありました。

実際、この女性のおもてなしがあまりにもすばらしいので、ある説教者はその地域を訪れたときには必ずその家に立ち寄りました。

ある日、この女性は夫にひとつ提案をしました。この巡回説教者はその地域を訪れると必ず来るのだから、屋上に彼専用の部屋を増築してはどうかと言うのです。

そうすればいつでも気兼ねせず来ることができるからです。

夫は言いました。「いいアイデアだね。彼がいるときはシャワーに入るのも少し不便だから、彼の部屋にシャワールームもつけようか。」

こうして夫婦は屋上に説教者専用の部屋を増築し、説教者は非常に喜びました。

ある日、説教者は女性に言いました。「ずいぶんお世話になっていますから、何かお礼にできることはありませんか。」

女性は、必要なものはそろっているので何も要りませんと答えました。

けれども、説教者は知っていました。本当に望んでいるものは常識的には不可能だから女性はそれを求めなかったのです。彼女は息子を望んでいましたが、もう妊娠する年齢ではありませんでした。

説教者は考えました。私は神に信仰を持っている。だから、この女性に息子が与えられるよう神に祈ろう、と。

この説教者は、神が子を与えることのできるお方だと心から信じていたので、一年後には息子をその手で抱いていますよ、と女性に告げました。

そして、それが実現したのです。

それだけではありません。

息子さんは大きくなると、父親の農場を手伝うようになりました。

ある日、息子さんが急に具合が悪くなって亡くなられ、女性は悲しみに暮れました。

夫婦は、息子が与えられるようにと祈ってくれた説教者を探しに別の町まで出かけました。

ついに説教者を見つけると、説教者は夫婦とともに彼らの自宅へ行きました。

息子さんの遺体が安置されている部屋に説教者が通されました。

説教者は悲しみましたが、まだあきらめていませんでした。

息子さんが死からよみがえるようにと熱心に祈りました。

息子さんの遺体の上に自分の体を横たえて祈ることもしました。

すると、なんと息子さんが生きかえったのです。信じられないような奇跡が起こり、女性は大喜びしました。

けれども、まだ続きがあります。

説教者は、女性の住んでいる地域に7年間の大凶作が起こることを知りました。

説教者は、食物を得られる別の町に避難するようにと女性に忠告しました。

女性は説教者の言葉を信じ、土地も所有物も置いて7年間その地を離れて、難を逃れました。

これで終わりではありません。

7年の大凶作の後、女性が自分の土地に戻ると、家や土地は別の人が占有していました。女性は、すべてを失いました。

けれども、説教者がその国の王と知り合いだったので、まもなく女性は家と土地を取り戻すことができました。

その上、その7年間に女性の土地で育った農作物の収益が女性の手に入るよう王が手配してくれたので、それを元手に農業を再開することができました。

なんとすばらしい話でしょう。

これは聖書に書いてある話ですから、実話です。

（列王記第二4：8-37、8：1-6）

女性がした唯一のことは、巡回説教者へのおもてなしです。

けれどもその説教者はエリシャでした。エリシャは、神の聖霊を二倍いただいた人でした。

この話に登場する女性とまったく同じ祝福を受けるとは保証しませんが、おもてなしを提供した相手にとって祝福になれます。その相手が神のみことばを伝える説教者や教師ならなおさらです。

おもてなしを提供して祝福を与えるだけでなく、自分も祝福を受けるでしょう。

日本では、なかなか自宅でもてなすことができない状況だということはわかります。1LDKで暮らしているならそうでしょう。けれども、狭くても客間があれば、いつか誰かの祝福になれるはずです。

私たち夫婦は、生駒山の中腹にある一軒家を借りるという特権に与りました。

御使いをもてなしたとは思っていませんし、これまでお迎えした人の中には御使いらしからぬ人たちもいました。けれども総じて、私たちの家で過ごした人にとっても私たち自身にとっても祝福だったと思います。

マッケンナ・ホテルは2月で終わりますが、来年8月には英国で再開します。

1. **投獄されているクリスチャンや不当に扱われている人々を支援する。（3節）**

「…自分も肉体を持っているのですから、苦しめられている人々を思いやりなさい。」と聖書は語ります。

私たちクリスチャンは、大きな家族の一員です。その家族の誰かが苦しんでいるなら、神の聖霊をとおして私たちも苦しみを共有します。

つながりを作るのは、聖霊の実です。見ず知らずの人が恵まれない環境にあっても、通常はそのことに影響を受けません。

けれども、神の聖霊は、私たちを神の家族とつなげてくれます。そして、可能であるならば、私たちは家族を助けなくてはなりません。クリスチャンが信仰を理由に投獄される国に焦点を絞って働きをする宣教団体があります。

隣国の北朝鮮は、世界一クリスチャンが生きづらい場所です。新年、私たちには何ができるでしょう。

1. **性的なきよさを保つ。（4節）**

4節は、既婚者が結婚の貞節を守るように命じています。姦淫を犯す者を神がさばかれると語ります。

ダビデ王は誠実な王でしたが、姦淫の罪を犯し、神による厳しいさばきを受けました。

既婚者は、少なくとも月一度配偶者とデートすることが大切です。可能であれば、週一度デートしましょう。

夫である皆さん、2020年には、奥さんを月に一度デートに連れていくことを目標としてください。自分の趣味ではなくても、奥さんの喜びそうなことをしましょう。

妻である皆さん、神を畏れる敬虔な妻でいましょう。そうすれば、夫にとって心身ともに魅力的な女性でいられます。

そうは言いましたが、妻である皆さんはできる限り身だしなみに気を使って、夫を喜ばせるようにしましょう。

よりよい結婚生活のアドバイスがほしい人は、聖書の雅歌を読んでください。伝道者の書とイザヤ書の間にあります。

夫も妻も互いに相手を思いやって、良好な夫婦関係を保つ努力をすれば、姦淫を犯す可能性は低くなります。

良好な夫婦関係を保つカギはコミュニケーションです。

1. **金銭的なニーズを神が満たしてくださると信頼する。（5-6節）**

この部分で最初に言われているのは、金銭を愛してはいけない、ということです。

テモテ第一6：6-11

6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

 6:7 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。

 6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。

 6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。

 6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

 6:11 しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。

ヘブルの信徒たちに手紙を書いた著者は、持っているもので満足しなくてはならないと言います。それが私たちの必要のために神が与えてくださったものだからです。

ここで引用されているのは、詩篇27：1と詩篇118：6です。

2020年を迎えるにあたり、私たちも、イエス・キリストを信じる信徒であり神の子どもとして、すべての必要を神が賄ってくださると信頼しましょう。

1. **教会の指導的立場にある人々を敬い、助ける。（7節）**

これも聖霊の実であることを忘れないでください。

教会の指導者とは、OICの場合、教会役員や牧師です。そのような人たちに対する敬意を欠いているなら、聖霊の実が現れていないと言えるでしょう。

1. **イエス・キリストは決して変わらないと覚えておく。（8節）**

2020年にはあらゆる変化があるでしょう。しかし、イエス・キリストは決して変わりません。イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

これは、素晴らしい真理です。

イエス・キリストというお方とこのお方がなさった事柄に関する聖書の教えは、すべて真実であり変わりません。

私たちに今かかわってくださるイエス・キリストのご人格は、決して変わりません。

聖書が教える未来のイエスも真実であり変わりません。

人は変わっても、イエスは決して変わりません。主の御名をたたえます。

1. **偽りの教えに欺かれず、神の恵みを信頼する。（9節）**

クリスチャンの生きるべき道についても、神とイエスについて信じるべき事柄についても、偽りの教えは2000年前から存在します。

偽りの教えにしっかりと立ち向かう方法は、真理を知ることです。

神とイエス・キリストと聖霊について聖書が教えることを知り、信じ、その教えに忠実であれば、偽りの教えに感化されにくくなります。

キリスト教の教理は非常に大切です。

2020年には、ウィリアム・エバンズ著「聖書の重要教理」を読んでみてはいかがでしょう。英語版はインターネットに無料で公開されています。

これを一冊読んで、そこに記されている聖書個所をすべて読むには、1年ほどかかるでしょう。

私は聖書学生時代に2年かけて、講義に出席したり教理を勉強したりしながらこれを読みました。1985-1987年のことです。

35年経った今でもこの本を手放しません。

先日御使いについて学びましたが、その準備のために、御使いについて書かれた他の本も読みましたが、「聖書の重要教理」にはより明確に御使いに関する教理が記されていました。この本を皆さんにお勧めします。

日本には、偽りの教えを広める異端がたくさんありますから、気をつけてください。

クリスチャンや説教者を名乗りながら、真理を教えない人もたくさんいますから、気をつけてください。

また、インターネットにも気をつけてください。ネット上は偽りの教師にとってかっこうの活動場所です。

最後に、神の恵みを信頼してください。

2020年、神の恵みを知れば、私たちは霊的に豊かになれます。

私たちの人生に注がれる神の恵みをよく知らなければ、霊的に乏しくなるでしょう。

私たちの人生に注がれる神の恵みを知るとはどういう意味でしょう。

それは、聖霊の実です。

聖霊が私たちの心に宿っているなら、神の恵みを示してくれます。そして、今の生活とこれからの人生で神の恵みがどんな意味を持つのかも示してくれます。

クリスチャンでない人が、心の中で神の恵みを直接知ることはありません。

ですから、今日イエスを信じませんか。イエスについて聖書が教えることを信じるという信仰の一歩を踏み出して後悔することはありません。

福音は恵みの福音です。行いによるのではありません。

エペソ2：4-10

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

 2:5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、──あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです──

 2:6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。

 2:7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。

 2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

 2:9 行いによるのではありません。だれも誇ることのないためです。

 2:10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。